

5. 湖産アユ種苗性向上試験費

1) アユの冷水病に対する薬剤の治療効果(1)

二宮浩司・酒井明久

【背景】近年、アユ種苗の歩留まりの低下が大きな問題となっており、その原因の一つとして冷水病が関与していることがわかっている。

【目的】冷水病（滑走細菌の仲間である Cytophaga psychrophila 感染症）による歩留まりの低下を防ぐため、薬剤による治療効果試験を行った。

【成果概要】

エリ採捕魚を直ちに各試験池（0.6m³）にそれぞれ1.5kg（尾数にして約1000 - 1500尾）ずつ導入し、次のような投薬試験を行った。

試験1（平成7年4月エリ、図1）

- ①OTC（塩酸オキシテトラサイクリン）による池入れ直後の薬浴（10ppm、8時間）、②SIZ（スライツール）による餌付け完了直後からの経口投与（200mg/kg・日、5日間）を行った。
- OTCの薬浴では、治療効果はなかったものの、冷水病の発症を対照区と比べて1週間ほど遅らせる効果があった。
- SIZの経口投与では、投薬の効果が現れる前に、対照区と同じ時期に冷水病が発症したが、へい死量は対照区と比べて軽減された。

試験2（平成7年5月エリ、図2）

- ①OTCによる池入れ直後の薬浴（10ppm、8時間）+SIZによる餌付け完了直後からの経口投与（400mg/kg・日、7日間）、②①+SIZ経口投与終了後のOTCの再度の薬浴（10ppm、24時間）を行った。
- 対照区では、池入れ7日目から冷水病によるへい死が始まり、約1週間続いたが、両試験区（OTC薬浴とSIZ経口投与の組み合わせ）ともに冷水病の発症はほとんど抑えられ、治療効果が確認された。ただし、①の試験区では軽微な冷水病が後で発生した。

【成果の活用】アユの冷水病の歩留まりの低下に対する薬剤の効果が確認されたが、塩酸オキシテトラサイクリンの使用はアユで法的に認められていない。

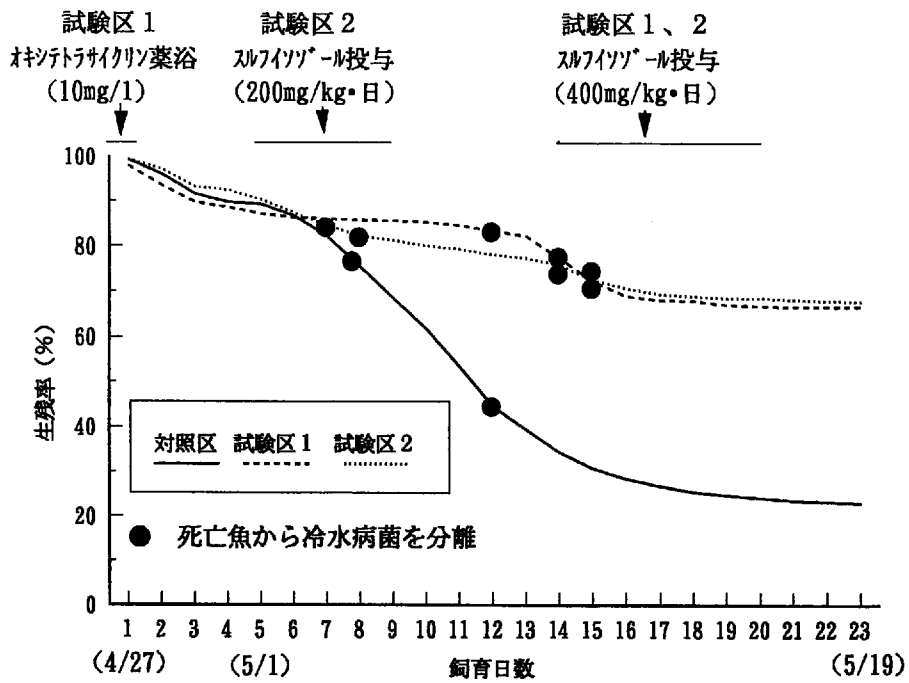


図 1. アユの冷水病に対する薬剤の治療効果 (1).

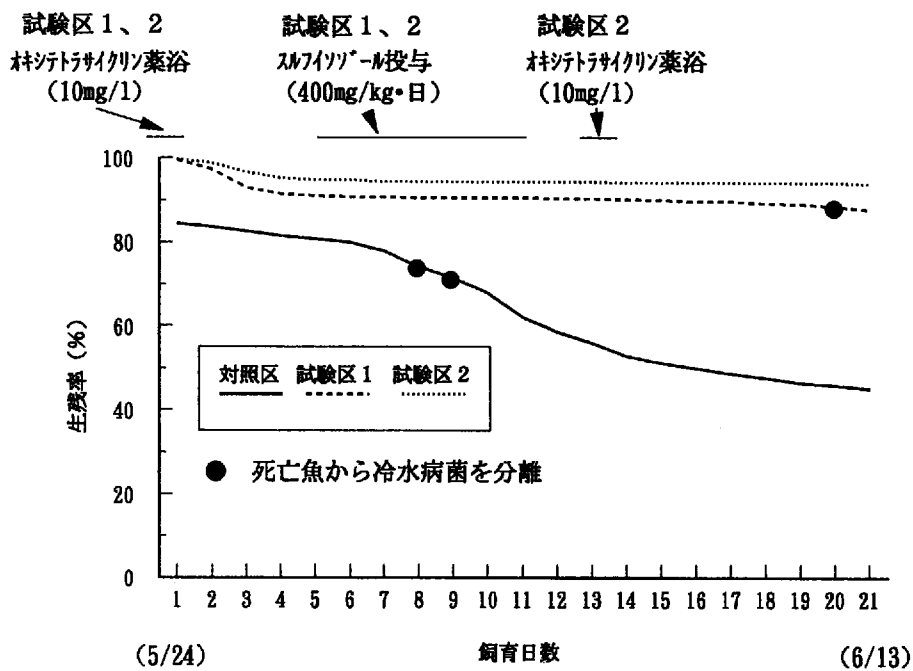


図 2. アユの冷水病に対する薬剤の治療効果 (2).